

9 調査・研究

(1) 基本的な考え方

博物館における調査・研究活動は、資料の収集・保存・展示・教育普及活動の根幹を成すものであり、当館の基本構想および理念を基に、次の点に留意して行う。

- その成果が市民に還元できるものであること。
- 当館の設立主旨に沿ったものであること。
- 将来、展示に活かされるものであること。
- 科学的・客観的なものであること。

(2) 調査・研究の目標

ア 館共通

熊本の歴史と自然および科学技術についての研究を行う。

イ 分野別

【地質分野】

熊本県内を中心に地質・化石の調査を行う。

【動物分野】

熊本県内の動物分布に関する調査を行う。

【植物分野】

熊本県内の植物分布に関する調査を行う。

【理工分野】

楽しく活動しながら自然科学の原理や技術について体感できるような体験型プログラムの開発を目指すとともに、理工分野関連の企画等について調査・研究する。

【考古分野】

熊本市内の考古資料を中心に寄贈コレクションも調査・研究する。収蔵資料の多くが未整理のため、分類・整理・資料紹介に努め、市民や研究者などが活用できるようにする。

【民俗分野】

館所蔵の資料整理及び展示を行い、市民や来館者への新たな情報提供を目的とする。

【歴史・美術工芸分野】

熊本博物館所蔵資料の調査・整理を行い、歴史・美術史・工芸史の観点からの研究を進め、市民や来館者への情報提供と展示に活用するための準備に努める。

【保存科学分野】

館内環境を調査し、展示品や収蔵品にとって適切な状態を保つことを目的とする。

また、資料の修復などについて担当学芸員と相談のうえ、適切な処置の方法を考える。

ウ 今年度の調査・研究の取組

【地質分野】

令和4年度の特別展開催に向けた国内の翼竜標本調査。

【動物分野】

金峰山山系及び江津湖の動物相調査。

【植物分野】

金峰山及び江津湖を中心とした市内植物相の調査。

【理工分野】

子ども科学・ものづくり教室に係る科学実験や科学工作の工夫・改善。

学校教育支援事業に係る学習プログラム集の改訂（館内学習プログラム集 第2版）と教材・教具等の工夫・改善。

【考古分野】

発掘後に長い時間が経過した収蔵資料の再調査を行い、資料価値を高めて展示し、多くの市民に重要性を紹介。

【民俗分野】

学校教育支援事業（お出かけ・お迎え事業）で利活用するための館蔵資料の調査。

収蔵展示室の展示整備に伴う郷土玩具と土産物の調査。

【歴史・美術工芸分野】

企画展に係る能楽関係資料調査・研究。

井手三郎関係資料の調査・整理。

収蔵品の悉皆調査（陶磁器、絵画）。

次年度以降の企画展・特別展開催に向けた資料調査。

その他、寄贈資料受け入れに伴う諸調査など。

【保存科学分野】

館内の温湿度や空気質等を測定するほか、展示室や収蔵庫内の環境と文化財害虫の有無を調査。また、年間を通じて月ごとの動向や傾向を分析し、館内 IPM の改善を図る。